

式辞

この度、ご来賓の皆様にご臨席いただき、令和5年度の学位記授与式を挙行できますことは、大きな喜びです。本日、学士863名、修士390名、博士10名、合計1263名の皆さんに学位記を授与いたしました。また、さる3月15日には、本学および東京農工大学と茨城大学の3大学で構成される東京農工大学大学院連合農学研究科において、本学教員の指導を受けた7名の方に博士の学位が授与されました。それぞれの学位を修め、本学から巣立っていく全ての皆さんに、そして、これまで皆さんを色々な形で支えてこられたご家族および関係者の皆様に、宇都宮大学を代表して心よりお祝い申し上げます。本当におめでとうございます。

また、この中には、41名の留学生の方々がおられます。母国を離れ言葉や生活習慣の違いなどを乗り越えながらの学位取得、本当におめでとうございます。

さて、本年の元日に発生した能登半島地震では、多くの方が犠牲となり、現地では今でも避難生活を送っているの方々がおられます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。本学の学生にも、ご実家等が被災された方がいらっしゃいました。その中で、ご自身の頑張り、そしてまわりの皆様のサポートにより、本日、複数の学生に学位記を授与することができましたこと、大変うれしく思うとともに、敬意を表する次第です。

2019年から世界的に拡散した新型コロナウイルス感染症は、昨年5月より5類感染症への移行となり、国や自治体の対策方針も縮小となりました。本学独自に定めておりました、さまざまなコロナ対策のための規制も、すべて解除し、授業やクラブ、サークル活動、海外留学など、コロナ禍以前の状況に戻ってきております。本日の学位記授与式においても、5年ぶりに保護者の皆様方のご出席が可能となりました。

しかし、特に、2020年、令和2年度に入学された皆さん方は、まず、入学式の式典などが実施されず、授業も最初からオンライン、という状況で、思い描いていた学生生活とは大きく異なるスタートであったかと思います。コロナ禍のため、とはいえ、皆さんの修学や生活に大きく影響を与えてしまったことは、学長として忸怩たる思いです。

また、ロシアによるウクライナ侵攻やガザ地区での戦闘など、世界的な情勢は、なかなか平穏なものとは言い難い状況です。皆さん方の将来や周囲の環境が穏やかなものであることを願っておりますが、今後、多くの山や谷に出会い、乗り越え、進んでいかなければならないこともあるかと思えます。そのような時には、これまでに身に付けた知見や経験を基に、しっかりと進んでいていただきたいと思えます。

一方で、これから皆さんの進む先には、無限の可能性が広がっていることも、また事実です。自信を持って、自らの道を進んでください。そして、ご自身はもとより、社会の中で役立つように、ご自身の力を活用、発展させていただければ、と思っております。

さて、在学中に身に付けた知識や能力が、実社会では役立たないと感じる場合に直面されることも今後あり得ると思えます。学んだことを、現実の世界で活用するためには、社

会の仕組みや実際の形への適応が求められ、そのためには、新たな経験を経た上での学びが必要になることも多くあります。

また、少子高齢化や人口減少、カーボンニュートラル、SDGs、デジタル・トランスフォーメーションなど、様々な分野における新しく多様な課題や目標、そしてその対策などが、世界的レベルで加速度的に進められている中で、知識や技術、そして考え方そのものも含めて、時とともに、次々と新しいものが加わり、上書きされていきます。

したがって、これからも、研鑽を重ね、新たな知識や技術をさらに身に付けていくことが必要となります。その意味では、本日の学位の取得は、これまでの一旦の区切りであり、到達した成果の一つ、ではありますが、一方では、新たな始まり、キックオフでもあります。

大学を出たのに、また勉強か、と思われるかもしれませんが、でも、皆さんは、そのための準備を、既に済ませています。本日を迎えるために、様々な取組みを既になされてきているはずです。それは、学問を修める、研究を行う、といったことから、課外活動も含めた社会的な学びも含めて、これまで行ってきたこと全てが、先ほど申し上げた将来に向かっての準備でもあったということです。例えば、課題を解決するための手法と手順、その考察と実践、多様な情報を取り入れる柔軟かつ論理的な思考の醸成、目標達成のための継続し諦めないという精神力、多彩な人間関係の構築とその蓄積、など、これまで行ってきたことが、それを基盤にして、これからも役立つことと思います。その意味でも、これまで身に付けたものをしっかりと活用して、進んでください。

さて、その上で、今後、皆さんが、社会で活躍するために、役立つと思われる姿勢、観点を少しだけお示しします。それは、本学で掲げている「共創」と「複眼」という言葉で表しているものです。一人ひとり、個々の存在とその意思は非常に重要で大切なものですが、社会は独りで存在しているわけでも、一人で成り立っているわけでもありません。多様で多彩な存在を認識し、色々な場面で共に進み、共に創り上げていく、この「共創」の概念が、社会で活躍するためには必要です。ただ、「共に」ということを実行するためには、相手方のことを良く知る必要があります。自分とは違う考え方や常識の持ち主と共に、ということも多くあることだと思えます。そのためには、多様なものの見方やそれを理解したり受け入れる力、「複眼」が必要になります。皆さんは、それぞれの専門分野を究めて、学位を取得されたわけで、その専門分野はとても大事な財産です。しかし、実は、高い専門性というものは、幅の広い知識と教養に支えられてこそ確立されるものです。幅広い知識に基づく多様な視点、「複眼」というものをもって物事にあたることにより、変化に対応する柔軟さも得られ、新しいものへのチャレンジも図れることとなります。現実の社会というものは、先ほど申し上げた、自分とは異なる考え方やこれまで知らなかったやり方などがたくさん存在する、まさに多様性の塊です。これを、まず認識し、色々な視点や対応をもってそれらに対処する、すなわち「複眼」が必要になります。新たな道を進む場合、この「共創」と「複眼」という言葉を皆さんの心の片隅に置いておいていただければ、と思います。

ところで、本日皆さんにつけていただいている青色のストールは、本日のお祝いとともに、メッセージを込めています。ストールに描かれている3本の黄色い線、これは本学の「宇大スピリッツ：3C精神」を表しています。ご存知のことと思いますが、「3C」とは、主体的に挑戦する「Challenge」の「C」、時代の変化に対応し自らを変化させる「Change」の「C」、そして、広く社会に貢献する「Contribution」の「C」の頭文字をとったものです。これらは、未来を開拓していくために重要なものであると本学は考えています。なお、社会的な行動に移すために、主体的に社会と繋がる「Connect」、責任を持って社会に関与する「Commit」、多面的に社会と協働する「Collaborate」という3Cアクションも本学は掲げています。「3C精神」、そして、「3Cアクション」も、「自ら」という言葉が付きます。自ら行うということが今後重要な姿勢の一つでもあります。今後、自分の道を進む時、この「3C精神」と「3Cアクション」、そして「自ら」ということを思い出していただければ、と思います。

さて、今後、大きな山や谷を乗り越えなければならない時があるであろう、と先ほど申し上げましたが、その際、独りでは解決できず、誰かと相談したい、ということがあるかもしれません。その時には、皆さんが築かれた人間関係などを精一杯活用することが肝心ですが、宇都宮大学も、もちろん、応援します。いつでも、本学を訪れてください。指導教員はもちろんのこと、教職員一同、皆さんを支援し、皆さんにとっていつまでも信頼でき安心できる母校でありたいと思っています。

冒頭に申し上げた言葉の繰り返しになりますが、皆さんの進む先には無限の可能性が広がっています。自信を持って、自らの道を進んでください。

あらためまして、本日学位を取得された皆さんの門出を祝うとともに、皆さんのこれからの挑戦と活躍を祈念して、学位記授与式の式辞といたします。

令和六年三月二十二日

国立大学法人宇都宮大学長 池田 宰